

受賞した学校・図書館・団体の取組内容について

(1) 学校

① 天草市立栖本小学校（児童数：84人 校長 須恵 勝幸）

【取組内容】

学校経営方針の柱の一つとして「読書活動の推進」を掲げるとともに、学校図書館教育全体計画、図書館経営計画、学年別図書館利用指導計画を策定している。「学力の基盤づくり、豊かな心の育成」を目的とし、「読書で日本一」という目標を掲げ、読書活動の推進に学校総体となって取り組んでいる。

学校全体の取組として、毎週水曜日に一斉読書、金曜日にボランティアによる読み聞かせを年間を通じて実施している。ボランティアによる読み聞かせは15年間にも及んでおり、読書活動推進に貢献している。また、図書委員会による取組では、読書イベントや委員会発表等、児童自らが読書の楽しさを全校児童へ呼びかける活動を行っている。さらに、天草市立図書館の協力を得て、各学年30冊の本を教室内に配置し、「子どもたちの手の届くところに本がある」環境づくりに努めている。

その結果、年間一人当たりの貸出冊数は年々増加しており、平成29年度は140冊と平成24年度の4倍以上となっている。また、読書量と学力の関係を分析し、栖本小学校では「読書量が多い児童ほど学力が高い」「読書量が多い児童ほど学力成就値がプラスになる傾向がある」ということがわかり、読書量の増加とともに学力の向上においても着実に成果を挙げている。



教室での読み聞かせ



教室の図書コーナー

② 熊本県立小川工業高等学校（生徒数：556人 校長 米納 康志^{よのう やすし}）

【取組内容】

教育目標達成のための具体的取組として、「朝読書の推進」を挙げている。教育方針である「確かな学力の育成と進路実現」、「豊かな心をもった生徒」の育成に向け、共通意識をもって生徒の読書指導に取り組んでいる。

始業前に全校一斉に実施される「朝の読書」は、平成29年度で18年目となり、休み時間や放課後に本を借りに来る生徒も多い。一日の始まりに読書に親しむことで、落ち着いた授業の雰囲気づくりにもつながっている。

図書委員会の活動は、読書に関する情報等を掲載した広報誌を月に1回発行や、教室等に出向いて貸出、返却を行う「出前図書館」の実施等を行い、生徒の読書意欲の向上を促している。時事問題や進路指導に関する展示コーナーを設置し、館内の整備をしている。また、校内の活動だけでなく、平成20年度からは近隣の宇城市立小野部田小学校へ図書委員を派遣し、教室で読み聞かせを行っており、地域の協働活動の一助にもなっている。

これらの活動により、生徒が多種多様な本と触れ合う機会を得るとともに、集中力や想像力高めることへとつながっている。生徒一人当たりの貸出冊数は、10.7冊と平成27年度から徐々に増加しており、県平均（9.0冊）を上回っている。



小学校での読み聞かせ



各月のテーマ展示

③ 熊本県立盲学校（生徒数 43人 校長 ^{まえだ} ^{やちよ} 前田 八千代）

図書館が教育課程の展開に十分活用され、幼児児童生徒の豊かな教養や人間性を育むための資料を収集・整理し、資料センター・情報センターとしての役割を果たすべく様々な取組を行っている。

平成22年から県の「障がいのある子どもたちの読書活動推進支援事業」の助成を受けて、ボランティア団体と協力し、紙芝居、パネルシアター、大型絵本の読み聞かせ等、工夫を凝らしたおはなし会を、幼稚部と小学部を対象に実施している。視覚障がいのある子どもたちの読書環境を整えるため、音楽が流れたり、ページをめくる感覚で画面が変わったりする絵本アプリの作成を専門学校へ依頼し、活用している。

調べ学習等に必要な資料は、教員からの希望により揃えており、熊本市立図書館や点字図書館等からも借り受けをし、他施設の活用も積極的に行っている。

また、寄宿舍生の読書環境の整備のため、寄宿舍に図書コーナーを設置し、点字の本を読んだり、寄宿舍指導員が読み聞かせしたりしている。

取組により、平成25年度以前は700冊前後であった貸出数が、平成26年度からは1,000冊を超えている。さらに、図書館を通じて読書に親しむ様子が見られるようになり、図書館を訪れる卒業生も増えてきている。



授業での活用



おはなし会

(2) 図書館

① 八代市立図書館（館長 こいで やすこ 小出 泰子 職員数18人）

八代市子ども読書活動推進計画のもと、家庭、地域、学校、関係団体、ボランティア等と相互に連絡・協力しながら子どもたちの読書活動の推進を図り、図書館スタッフによるそれぞれの年代にあった様々な子ども向け行事を実施している。

毎週おはなしバイキングや幼児・小学生向けおはなし会を実施し、来館者の増加に貢献している。あかちゃんハッピーブック活動では、赤ちゃんと保護者が絵本に触れ合うきっかけを提供し、年に40回程度の実施で650人程度参加されている。また、「えいごであそぼう」や「えいご de おはなし会」など月1回実施し、英語教育に関する活動にも力を入れている。

図書館講座「調べるっておもしろい」では、本図書館を使った調べる学習コンクールを行い、子どもが自主的に読書による調べ学習ができるような活動を年5回実施している。

その他にも、移動図書館車で学校等を訪問し子どもたちが本を利用できる環境を提供したり、図書館便りの発行や職場体験等を通して図書館を知り、親しみを持ってもらえるような活動も行っている。

このような活動の中で、読書の楽しさや本の大切さだけでなく、読書を通じて豊かな感性を磨き、誠実さや思いやりのある個性の形成に大いに寄与している。



おはなし会



えいごであそぼうのチラシの一部

(3) 団体

① おはなしの会「あすなろ」(代表 武田 房子 会員数6人)

南関町で活動している読書ボランティア団体である。

発足当時から月1回行っている「定例おはなし会」や七夕おはなし会等の「季節イベント」を南関町立図書館と連携して実施している。

南関町内にある保育園2園にそれぞれ月に1回、小学校4校にそれぞれ学期に1回読み聞かせを行っている。

また、ブックスタート事業と連携し、偶数月に行われる7、8か月検診で読み聞かせを行っている。1歳検診などその他の検診の際にも、待ち時間に子どもたちに読み聞かせを行っている。

平成26年度までは定例おはなし会の参加者数は減少傾向であったが、図書館と連携し、チラシの配布など広く周知することに努めた結果、おはなし会の参加者数が平成26年度の56人から平成28年度は226人へと大幅に増加した。その結果、図書館の来館者も増え、夏休み中の小中学生の貸出数の増加が平成27年度から平成29年度にかけて約2倍近く増加した。



七夕おはなしの会



おはなしの会